

修士論文（要旨）

2018 年 1 月

中国語母語話者の日本語語彙習得に関する一考察
—ペアの自他動詞の習得を中心に—

指導 宮副ウォン 裕子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

215J3901

权 璿

Master's Thesis (Abstract)

January 2018

A Study of Chinese Speakers' Acquisition of Japanese Vocabulary:
Focusing on Transitive-intransitive Paired Verbs

Yun Quan

215J3901

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J.F.Oberlin University

Thesis supervisor: Prof. Yuko Miyazoe-Wong

目次

第1章 はじめに.....	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 研究目的.....	3
1.3 本研究の構成.....	3
第2章 先行研究.....	5
2.1 自動詞・他動詞とは.....	5
2.2 自他対応とは.....	5
2.3 ペアの自他動詞の習得について.....	6
第3章 調査について.....	10
3.1 調査概要.....	10
3.2 調査対象.....	10
3.2.1 教師向けの調査協力者.....	10
3.2.2 学習者向けの調査協力者.....	11
3.3 調査方法.....	13
3.3.1 教師向けの調査.....	13
3.3.2 学習者向けの調査.....	14
第4章 中国人日本語教師向けの調査の結果および分析.....	17
4.1 教師向け調査の結果.....	17
4.1.1 選択問題と穴埋め問題の調査結果.....	17
4.1.2 指導法についての回答分析.....	19
4.2 教師向けの調査結果からの考察.....	21
第5章 日本語学習者向けの調査結果および分析.....	22
5.1 学習方法についての調査結果.....	22
5.1.1 社会人日本語学習者5人の調査結果.....	22
5.1.2 大学院生日本語学習者13人の調査結果.....	23
5.1.3 大学四年生協力者15人の調査結果.....	24
5.1.4 大学三年生協力者15人の調査結果.....	25
5.2 ペアの自他動詞の知識レベルの調査結果.....	26
5.2.1 社会人日本語学習者5人の調査結果.....	26
5.2.2 大学院生日本語学習者13人の調査結果.....	26
5.2.3 大学四年生協力者15人の調査結果.....	26
5.2.4 大学三年生協力者15人の調査結果.....	27
5.3 ペアの自他動詞の使用レベルの調査結果の分析.....	27
5.4 ペア自他動詞の使用に現れた問題点の類型考察.....	49
第6章 総合考察.....	58
6.1 教師側の調査からみる教育指導の問題点.....	58

6.2 学習者側の考察	59
6.2.1 ペアの自他動詞の学習方法への総合考察	59
6.2.2 ペアの自他動詞の使用状態への総合考察	59
6.3 日本語教育への提言	61
第7章 おわりに	63
参考文献	エラー! ブックマークが定義されていません。
付録	-1-
資料 1	-1-
資料 2	-3-
資料 3	-8-
資料 4	-19-
資料 5	-23-

要旨

第二言語の学習において、語彙学習が重視されているのは語彙習得が言語習得の最も重要な構成要素の一つだからである。しかし、語彙の習得がそれほど容易ではないのも現実である。第二言語としての日本語の学習において、活用して用いられる自他動詞、特にペアの自他動詞で文を表す時、意志的な働きかけなのか、行為の結果状態なのかなどを事象からうまく判断できないと、ペアの自他動詞の自他の選択は難しくなる。自他をうまく選択できても、その事象をどのようなヴォイスで表現するのか適切に対処できなければ、意図がうまく表せない。さらに文法的に正しい表現ができて、適切な表現であるかは、依然として問題が残る。これらに対して、自他動詞の形態的な対立を持たない中国語母語話者にとって事象ごとにペアの自他動詞の使い分けを弁え、正しく適切に使用するの容易ではない。

ペアの自他動詞が基本動詞であるだけに、日本語の表現能力に大いに影響を及ぼすため、自他動詞の習得上の困難さを克服する方法を探ることは喫緊の課題と言えよう。しかし、調べてみると、ペアの自他動詞の研究に関しては、言語学の記述的な研究が盛んに行われている一方、習得に関する実証的な研究の蓄積はまだ不十分である。そこで、稿者は修士論文のテーマとして、自他動詞の習得に関する研究を選んだ。目的はペアの自他動詞の指導及び習得状況の調査からペアの自他動詞の習得が難しい項目およびその要因の分析・考察結果に基づき、今後の日本語教育の実践現場において、ペアの自他動詞の効果的な教授法を提案したい。

本研究は、まず、指導者側の困惑は何かを探るため中国の日本語教師を対象として、ペアの自他動詞指導に関わる「感想」を聴き、教師自身のペアの自他動詞への認識を分析した。その結果、1) ペアの自他動詞の概念の指導に曖昧さがある。2) 初級で触れるだけでその後は体系的な指導が継続されないことが問題である。3) 教科書の内容に頼りすぎて、「可能の意味を含意する自動詞」や文型「V(よ)うとしてもV(可能形)ない」に対して「V」はペアの自他動詞の場合、どのように対処するかなどの重要な知識が見落とされている。4) 文型ほどペアの自他動詞の運用が重視されていない。5) 中国語母語の干渉を防ぐための指導上の工夫が足りないという結果が得られた。次に、学習者にペアの自他動詞の学習方法を調査するとともに、ペアの自他動詞の習得状況の調査も実施した。調査データからペアの自他動詞の習得状況を語彙の面と文法的な面に分けて考察した。その結果から次のような6つの問題点が浮かび上がった。1) ペアの自他動詞の自他混同の誤用が多い。これはペアの自他動詞の基本概念が的確に把握できていないことに加え、ペアの自他動詞への認識が語彙レベルの知識に留まっているのも要因である。2) ペアの自他動詞の自動詞の意志性を明確に理解していないため、さまざまな誤用が生じる。3) ヴォイス表現に誤用が多く生じたのは可能・使役・受身をとる条件が理解できず、動詞の意志性への認識不足が原因となっている。加えて、中国語母語の干渉も重大な要因でもある。4) 適切さに関わる問題の発生は主に自動詞文が可能を含意するのを知らないことや、慣用表現の知識不足等に起因している。5) 格助詞の固定概念からの類推による誤用が生じたのは格助詞を自他動詞選択の唯一の根拠としたことによる。6) 「変な活用」と「変なヴォイス変形」の問題はペアの自他動詞の学習意識に大きくかかわっているからである。

以上の考察結果を踏まえ、中国でのペアの自他動詞の教育指導に関し以下の5つの具体的な提

案をしたい。

その (1)、自他動詞の概念を導入する際、英語の文法用語を十分な吟味もなく利用するより、日本語の自他動詞の意味と運用規則に沿って教えることが望ましい。また、ペアの自他動詞の特徴を一度教えただけで終わるのではなく、可能・使役・受身を導入する際などに、更にペアの自他動詞への認識を体系的かつ継続的に補充し学習を促す必要がある。

その (2)、自他動詞の概念を導入すると同時に、意志動詞と無意志動詞の相違点も導入する必要がある。意志性への認識はペアの自他動詞の習得に大きく役立つと考えられる。

その (3)、ヴォイス関連の知識を導入する際に、自他動詞の分類および意志動詞、無意志動詞との関係を明示的に強調する必要がある。これにより、可能・使役・受身表現の誤用を軽減できるであろう。

その (4)、実際使用場面で適切に使えるようになるために、普段の教育指導では中国語母語の干渉に注意することに加え、慣用表現や格助詞の認識にも気づきを促すことが望まれる。すなわち、日本語母語話者が持つ日本語表現の視点の特徴を、学習者に常に喚起し強調することで継続的に学ぼうという意欲も強まるであろう。

その (5)、これまでの日本語教育の流れや教科書の改訂がたやすくできないのは事実だが、本研究で実証的に明らかにした知見を、教育実践の現場で日本語教師が生かすことは可能である。たとえば、教育の流れの合間を利用し、ペアの自他動詞を使ったコミュニケーション活動（タスク、クイズなど）の設計や実践の試みが考えられよう。

参考文献

- 安藤節子・小川誉子美 (2001) 『自動詞・他動詞、使役、受身: ヴォイス』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』フリーエーネットワーク
- 市川保子 (1991) 「可能動詞の助詞に関する一考察」筑波大学留学生教育センター『日本語教育論集』6、1-17、1991
- 井上和子 (1990) 『変形文法と日本語上』大修館書店
- 小川誉子美 (2001) 「自動詞使役文の諸相」『横浜国立大学留学生中心紀要』(11)、67-77
- 奥津敬一郎 (1967) 「自動化・他動化および両極化転形」『国語学』70号、46-66
- 楠木徹也 (2014) 「有対自動詞可能構文における意味的組成関係—他動詞有標可能構文との比較において—」『留学生日本語教育センター論集』40、103-111、東京外国語大学留学生日本語教育センター
- 国際交流基金 (1989) 『教師用日本語教育ハンドブック④文法Ⅱ助動詞を中心にして』凡人社
- 小林典子・直井恵理子 (1996) 「相対自・他動詞の習得は可能か—スペイン語話者の場合—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』11、83-98、筑波教育留学生センター
- 新村出 (1998) 『広辞苑 (第五版)』岩波書店
- 新屋映子・姫野伴子・守屋三千代 (1999) 『日本語教科書の落とし穴』アルク出版
- 張威 (1998) 『結果可能表現の研究: 日本語・中国語対照研究の立場から』くろしお出版
- 張威 (2008) 「有対自動詞無標記表示的可能義—結果可能義—」中日対照言語学会『日本語と中国語の可能表現』231-248、白帝社
- 張麟声 (2001) 『日本語教育のために誤用分析—中国語話者の母語干渉 20 例』スリーエーネットワーク
- 丁玲玲 (2013) 「日本語の自他動詞の誤用について— 中国人学習者の場合」『九州共立大学研究紀要』3 (2)、47-51、九州共立大学
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 寺村秀夫 (1992) 「ナル」表現と「スル」表現」『寺村秀夫論文集Ⅱ』くろしお出版
- 中石ゆうこ (2002) 「有対自動詞と有対他動詞の用法とその指導について—初級日本語教科書の分析の結果から—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 第51号、385-392
- 中石ゆうこ (2005) 「対のある自動詞・他動詞の第二言語習得研究—「つく—つける」, 「きまる—きめる」, 「かわる—かえる」の使用状況をもとに—」『日本語教育』124、23-32 日本語教育学会
- 中村祐理子 (2002) 「中級学習者の受身使用における誤用例の考察」『北海道大学留学生センター紀要』6、21-26
- 西尾寅弥 (1982) 「自動詞と他動詞—対応するものとしらないもの—」『日本語教育』47、57-68、日本語教育会
- 仁田義雄 (1988) 『月刊言語』17-5、34-37、大修館書店

- 日本語教育学会編集 (1982) 『日本語教育事典』 大修館書店
- 野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子 (2001) 『日本語学習者の文法習得』 大修館
- ハイコ・ナロック, プラシヤント・パルデシ, 影山太郎, 赤瀬川史朗 (2015) 『現代語自他
対一覧表 Excel 版』 (<http://watp.ninjal.ac.jp/resources/>)
- 林四朗・野元菊雄・南不二男・国松昭(2002) 『例解新国語辞典』三省堂 第六版
- 早津恵美子 (1987) 「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」『言語学研究』京都大
学言語学研究会
- 早津恵美子 (1989) 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて」『言語研究』95、231-256
- 深谷久美子・野間珠江・小林公子 (1994) 『広がる表現 動詞 (上級)』 専門教育出版
- 彭広陸・守屋三千代(2004) 『総合日語』第1冊 北京大学出版社
- 堀口純子 (1989) 「文型による指導」『講座 日本語と日本語教育 13』日本語教育教授法 (上) 明
治書院
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』改訂版 くろしお出版
- 三上章 (1972) 『現代語法序説—シンタクスの試み—』くろしお出版
- 三井正孝 (1992) 「自他対応の意味的類型」『日本語と日本文学』筑波大学国語国文学会 16 卷、21
-30
- 宮島達夫 (1972) 『動詞の意味・用法の記述的研究』 <著者名は国立国語研究所>秀英出版
- 村木新太郎 (1996) 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 森田良行 (1992) 『誤用文の分析と研究:日本語学への提言』明治書院
- 森田良行 (2006) 『日本語の類義表現辞典』東京堂出版
- 森田良行 (2008) 『動詞・形容詞・副詞の事典』東京堂出版
- 守屋三千代 (1994) 「日本語自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を参考に—」『講座日本
語教育』29、151-165、早稲田大学日本語教育センター
- 楊凱榮 (1989) 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』くろしお出版
- 吉川武時 (1997) 「外国人の日本語誤用分析 誤用分析 I」明治書院企画編集部 (編) 『日本語誤
用分析』明治書院, pp. 2-53

参考 URL

産経ニュース (2017. 5. 31)

<http://www.sankei.com/sports/news/170531/spo1705310020-n1.html>

日本語能力試験の関連 Web サイト

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E8%83%BD%E5%8A%9B%E8%A9%A6%E9%A8%93>